

件 名	原発事故に伴う甲状腺がんの検査に関する陳情			
提 出 者 住 所 氏 名	墨田区堤通 墨田区の子どもを放射能から守る会 代表 H			
受理年月日	平成26年9月3日	受理番号	第12号	

要 旨

墨田区に住む子ども（0歳～15歳）の甲状腺がんの検査を実施してください。

（理 由）

2011年の東日本大震災による福島第一原発事故の影響で、福島県をはじめ北関東の各地域に高濃度の放射性物質が降りました。

同年3月12日に福島第一原発1号機が水素爆発し、14日に3号機、15日には4号機が爆発しました。また、2号機からは高濃度の放射能が漏れ出しました。原発事故から3年以上が経ちましたが、放出された放射能の全量が明らかになっていません。2012年2月28日の気象庁気象研究所の発表によると、福島第一原発事故により大気中に放出された放射性セシウムの総量は、最大で約4京ベクレルに上ると試算されています。

その放射性物質を大量に含んだ放射性プルーム（放射性雲）が、2011年3月15日に、都内では葛飾区、足立区、江戸川区、江東区、墨田区など東京東部にあたる地域の上空を通り、多くの場所が年間1ミリシーベルトを超える放射能汚染地域になりました。

放射性プルームが東京上空を通過したことを知らなかった多くの国民は、放射性物質のヨウ素131を体内に吸入し内部被ばくをしました（ヨウ素131は自然界に存在しない物質のため、人間の身体は無警戒に体内に吸収し、主に甲状腺に蓄積してがんを引き起こします）。特に放射性物質による汚染被害が大きかった福島県や北関東の地域に比べると墨田区の汚染状況は低いかもしれません。しかし、多くの墨田区民が放射性ヨウ素131を体内に吸入したことで被ばくしている事実は変わりません。

福島県をはじめ、栃木県日光市では甲状腺検査を行っています。同市では、当初予定していた700人の定員数に対し、2,418人の申込みがあり、今でも原発事故の影響について不安を抱く保護者がいることがわかりました。

放射性物質により特に影響を受けるのは子どもや胎児であります。以上の現状を踏まえ、区内に住む0歳から15歳の*子どもたちを対象に、甲状腺がんの検査を実施することを求めます。

(※2014年4月現在の墨田区の人口は25万5,999人であり、そのうち0歳から14歳までは2万6,956人で、10.5%を占めています。また、2011年の事故当時に15歳であった児童を含めると、3万人を超えます。)

以上の趣旨をご理解の上、上記事項の実現をお願いいたします。

以 上